

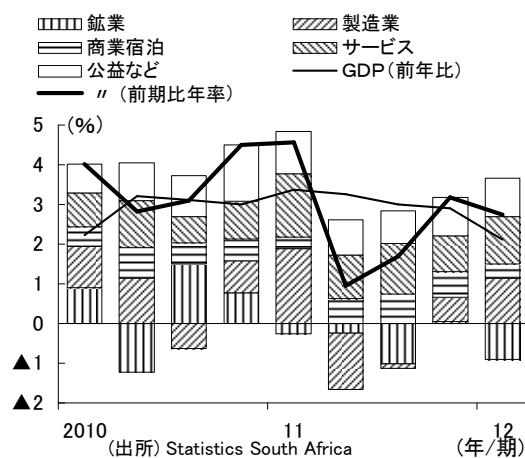


回復続く南ア経済

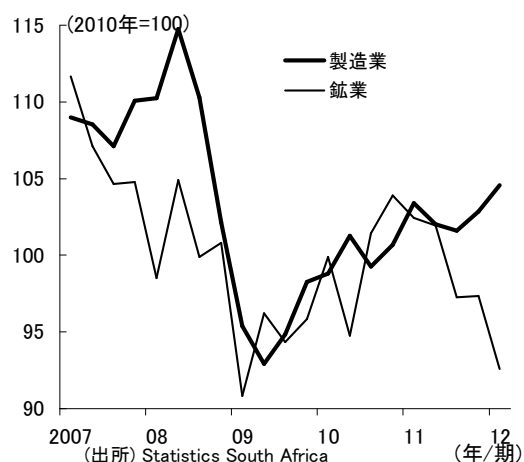
～ 政府のインフラ投資が投資後押しへ ～

- (1) 2012年1～3月期、南アフリカは成長鈍化（図表1）。昨年10～12月期と対比すると、実質経済成長率は前年比で2.9%から2.1%、季節調整率では3.2%から2.7%へ。減速は鉱業が、下支えは製造業が主因。前期比年率の寄与度をみると鉱業は昨年10～12月期の0.0%から▲0.9%～1%弱のマイナス。一方、製造業は昨年10～12月期0.6%から1.1%～0.5%のプラス。次いで不動産や金融などサービス業が0.9%から1.2%～0.3%プラスに。
- (2) 鉱工業生産をみても鉱業の減速は鮮明（図表2）。2007年初をピークに落ち込み。リーマン・ショック後の急速な世界経済回復を受けて持ち直す動きがみられたものの、11年に入ると、再び減勢。本年入り後の落ち込みは鉱山ストに伴う白金減産に加え、フェロクロムやフェロマンガンなど電力多消費のフェロアロイが電力制約で生産低迷。
- (3) 一方、工業生産は昨秋来、再び堅調な増勢回復。分野別にみると、家具や輸送用機械が牽引役（図表3）。所得・雇用環境の改善など景気回復を映じて昨秋来の住宅建設の盛り上がりが持続。消費マインドも旺盛で自動車販売台数は本年1～3月期には季節調整済み年率で63万台と既往最多を更新（図表4）。昨秋来のランド高修正を受けて自動車輸出台数も本年に入り持ち直しの兆し。景気好転を受けて労働市場に変化。従来、雇用者数と労働力人口は連動して推移。しかし本年に入り、雇用者数を上回って労働力人口が増加。周辺国からの移民を含め、労働力制約が緩和。
- (4) 電力需給の逼迫は停電に加え、値上げによるコスト増を通じて成長制約に作用。しかし政府は本年度予算で送発電を中心に積極的なインフラ投資計画。大規模発電所の完成は14年以降ながら、中規模の石炭発電所再開は本年中の見込み。物流を含めインフラ投資は外資流入の呼び水となり、成長力増大に寄与。ランド安も加味すれば、本年の同国経済は実質3%台の成長実現の公算大。

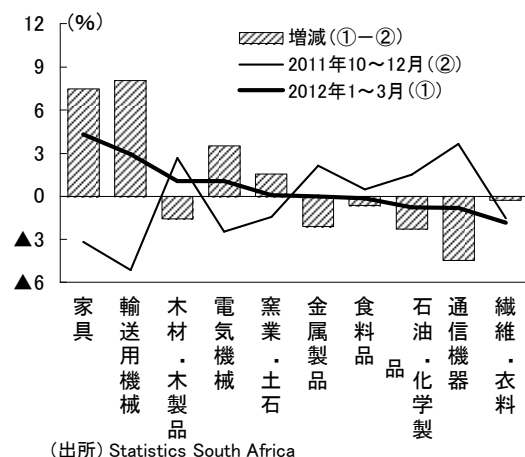
（図表1）南アフリカ実質成長率（季調済前期比年率）



（図表2）鉱工業生産の推移（季調済）



（図表3）業種別生産動向（季調済前期比）



（図表4）自動車販売・輸出台数（季調済）

